

## 第一学期始業式 式辞

平成30年度の新学期を迎えました。生徒の皆さんは、様々な決意を持ってこの始業式に臨んでいることと思います。今日は、皆さんが生まれたころから、私が教師として語り続けてきたことを話します。それは「主役でありなさい」ということです。

顔を上げて、こちらを向いてください。今、欠席がなければ、新2.3年生548名がいます。私は今、1対548の付き合いをするつもりはありません。1対1の付き合いを548回するつもりでいます。一人一人が、自分のことだと、自分を見ている、自分に言っている、と感じてこちらを見えています。この集団・この雰囲気、私を教師として導いてくれたのだと確信します。

人の心理として、集団のなかで自由に並ぶのなら、なるべく後ろにいき、目立たないようにしようと思いませんか。目立ちすぎるよりは奥ゆかしいのかもしれない。しかし、時として人は集団に紛れて、自分ひとりぐらい誰も見ていないだろう、気付かれないうだろう、適当でいいだろうと、大勢の中の一人に紛れようとしています。その瞬間、脇役に回り、自分の人生の主役を降りたことになるのです。脇役に回ると人は安易な・楽な選択をしがちです。

君たちは1/548ではない。一人一人が素晴らしい個性と輝きを放つ西高生です。『主役でありなさい。決して脇役に回るな。』ということをお皆さんに伝えたいのです。皆さんは昨年度の本校の100周年記念行事で、非常にエネルギッシュで素晴らしい活動をしたと聞いています。さまざまな場面でまさに主役を演じたのでしょ。それ以外の場面でも西高生としての誇りに満ちた学校生活を送っているはずで。反面、授業中は、1/40に紛れてしまうことありませんか、1対1の付き合いを40回しようとしてくださる先生の前で。登下校のとき、自転車通学時に、自分ひとりぐらいと脇役に回ることありませんか。徹底して脇役に徹するのなら、反社会的な人間になる。法が裁いて更生してくれるでしょう。そうでなく、その場その場で、人を見て立場を繕うのなら、何を学びに学校に来ているのかということになります。ずるくなるために学校に来ているのですか、人を欺くことを、裏切ることを学んでいるのなら本末転倒です。

高校で学ぶ目的は、社会に貢献できる人間になること、極めて不安定な現代社会をたくましく生き抜く力を育てるということです。正しいことは、正しい。間違っていることは絶対に間違っていると正しい判断をし、実行することで、社会で通用する人間になります。『主役でありなさい。決して脇役に回るな。』実りある平成30年度となるよう一人一人が、主役を演じきってください。